

農村の活性化と都市農業の理解
促進に向けた
新たな協同をめざして



第2号

2013年11月発行

JA都市農村交流全国協議会・会報誌

クロス・カントリー



11月16日 第5回まんまキッズスクール開催 収穫野菜の販売会の様子



JA都市農村交流全国協議会

JA都市農村交流全国協議会 会報誌について

創刊号で募集しました会報誌の名称について、「**クロス・カントリー**」に決定しました。

滋賀県のJAおうみ富士の川端均さんからの応募作品です。ご応募頂いた皆さまありがとうございました。

愛称は「クロカン」として、みなさんに愛読いただける会報誌を目指します。今後ともよろしくお願ひ致します。

<命名趣旨>

単語そのままが思いです。カントリー は田舎をイメージすることが多いのではないのでしょうか。

または、母国や故郷ができる言葉でもあり、国産農産物や地産地消、地域食文化と馴染みやすい言葉です。

そのカントリーを縦横無尽に結びつけ、人の交流、ものの交流を有益に繋げることを意味しました。

本来は、オリンピック種目にもあるように、アップダウンある野山を一步一步踏みして進むことであり、農山漁村風景そのものをさしています。

～～会報誌の主な構成～～

《会員活動》 P 3-4

本協議会会員の取り組み事例をご紹介しますコーナーです。

今回は、JA菊池の「まんまキッズスクール」の取り組みをご紹介します。

《JA交流事業》 P 4-5

「人・モノ・情報そして思い」が交流する「JA交流事業」の実践事例として「JA新ふくしま」の活動をご紹介します。

《研修会のご案内》 P 5-8

基礎研修会Ⅱの開催の結果報告および基礎研修会Ⅲの開催のご案内。

《調査・研究》 P 8-9

婚活に関して、「株式会社ツヴァイ」（イオングループの結婚相談所）の取り組みをご紹介します。

《絆レポート》 P 9

東日本大震災から2年が経過し3年目となりましたが、JAグループの復興・復旧のための支援活動は続いています。この「絆」の「交流」に関して、今年度の活動結果をご報告。

《くらしの活動情報》 P 10

「地域くらし戦略」の手引きが作成されました。その内容についてご紹介。

《お知らせ》 P 10

集客対策の新たな手法としてWEBサイト「JOINTLY GREEN」（ジョイントリーグリーン）をご紹介します。



述べ500名の子供が参加！

JA菊池では、平成19年から子供を対象とした食農教育の取り組みとして、「まんまキッズスクール」を開始しました。今年で6年目を迎えており、述べ約500名の子供たちが参加しました。

＜取り組み内容＞

◇対象：主に小学2～5年生

◇募集人員：80名

※応募は120～130名程度

◇主な内容

稲作などの農業体験や調理体験などを日帰りで年6回実施。

また、地元サッカーチームによるサッカー教室や全国箸文化協会によるおはし知育などもプログラムに加えています。

継続された3つの秘訣！

一、募集方法

6年間にわたり地元の教育委員会との連携ができており、今年度も管内の

小学校30校の対象児童9,531名へ学校を通じて案内書面を配布できています。確実かつコストをかけずに対象者へ向けての告知が出来ることは、理想的と言えます。

二、地元菊池農業高校と連携

JAと地元農業高校の両者にて、プログラムづくりから圃場管理および当日の運営体制が出来ています。

企画段階ではJA担当者と高校の担当教諭がプログラム案を作成し、教諭が学校へ持ち帰り生徒と話し合い、そこから出た意見要望なども考慮して、最終的に決定しています。

当日の運営では、参加者への指導役もJA職員と一緒に高校生が対応しています。継続出来ている最も注目される点は、圃場管理に関して、畑づくりから定植体験後の収穫体験までの管理を一括して高校が担ってくれていることにあります。JAにとっては職員への労力面でも負担が軽減でき、高校にとっては生徒への学習効果が得られることで、両者にとって有益な取り組みになっています。

三、JAの主役は若手職員

担当をJAの若手職員へ任せています。この業務は、若手職員の登竜門になっており、この担当を通じて消費者層との接し方や業務への創意工夫など、自ら考えて行動する経験を学んでいます。JAとしては、職員教育と位置づけており、年間の取り組みが終了した際に、必ず役員が担当職員を労う場面

を作っています。若手の取組みを評価していることは重要と言えます。



自分達で作った野菜を 25 周年秋の感謝祭にて販売するまんまキッズスクールの生徒達



同窓会も開催！

長い間継続してきた成果と言えますが、平成24年度には「まんまキッズスクール」の卒業生を対象とした同窓会も開催しています。約90名の参加があり、如何に地域に根付いた取組みであったかが伺えます。

また、6月の本会運営委員会終了後の懇談会にて、川口組合長は「地域のみなさんとの交流によって農協を知ってもらい、繋がりができるものと思っております。大きなことにはなりません、中身を充実させて、横に広げていきたい。都市農村交流は大事であると思います。これに枝葉を付けて中身をつけて、濃いものにするのが我々の役目と考えています。」と取組みの意義を語られました。

《JA交流事業》



JA新ふくしま
JA SHIN FUKUSHIMA

准組合員が正組合員を逆転！

JA新ふくしまは、平成18年に准組合員数が正組合員数を上回り、何らかの取組みが必要になりました。

そのため、准組合員の加入促進や消費者との結びつきを強めることが今後のJA事業の維持・拡大には避けて通れない課題となってしまいました。

3つの取組みを実践！

そこで、「准組合員のつどい」、「家の光クッキングフェスタ」、「ふれあい会」の3つの取組みを開始しました。

「准組合員のつどい」は、平成22年度から2年間は本店企画、平成24年度からは7地区本部による開催として取り組んでいます。

この取組みは、地区毎に行うことで、JA職員と准組合員との交流が深まると考え、7地区本部が独自の企画を自ら考え・実施する活動になっています。参加人数も当初の本店企画よりも1名でも多い参加を目指し、一気に拡大するよりも緩やかな拡大で継続した取組みになるよう展開されています。



「家の光クッキングフェスタ」では、対象者を非組合員として、JAを身近に感じてもらえる工夫を凝らした内容で開催しています。参加者の募集や開催施設は、市役所との連携により、幅広い参加者（120名）を募り、設備の整った施設にて開催が実現しています。また、活躍の場が少なくなった女性組織グループへ場の提供が出来たことも意義深いと言えます。



「ふれあい会」は、従来取り組んでいたJA支店毎の旅行企画を、支店長が行き先や内容を決めてしまうのではなく、支店職員や旅行参加対象も交えて、お茶飲み会のように気軽な支店での集いの機会を設けて、旅行企画などを行う取り組みです。

支店全体での参画により旅行参加者と支店職員とのコミュニケーションの向上や、旅行参加対象者自らの企画段階での参画により参加者同士の誘い合い等の効果も出ており、前年を上回る旅行の参加に繋がっています。



菅野組合長からは、『最近、組合員の方から「JAは話を聞いてくれる組織になった」とほめられることが増えた。震災直後もJAの利用のなかった方々の対応（出荷、賠償手続き等）もすべて受け入れた。困った時に頼られるJAであったことはうれしかった。』

これからもJA新ふくしまは、「地域のど真ん中にあるJA」を目指し、地域社会の発展に貢献していきたい。』と力強いお話を伺いました。

《研修会のご案内》



基礎研修会Ⅱ開催報告&Ⅲ開催案内

基礎研修会Ⅱの開催報告

情報発信の基礎を学びました！

JA都市農村交流全国協議会が、平成25年度の新たな取り組みとして「基礎研修会Ⅱ～情報発信手法基礎～」を去る9月20日（金）東京・秋葉原にて実施しました。都市農村交流、食農教育などの企画や広報担当など全国から32名の参加がありました。

JAさがみ実践事例報告！



実践報告としては、JAさがみの広報青木課長から地元にて地産地消の取り組みをする女性3名との各種連携による広告効果、そして広報には「ハート」が大事であると発表がありました。

日本農業新聞よりWEBの基礎を！



JAグループのホームページの制作などWEB部門を担当している日本農業新聞の岩波さんからは、JAグループをはじめ民間の多様なホームページを活用した広告展開などの事例紹介やWEBを活用するために必要な基礎知識について説明がありました。

毎日新聞から記者との付き合い方を！

今回は外部講師をお二人招いての実施であった。お一人目は、毎日新聞の編成局部長より、新聞記者が応対しやすい時間帯や目に引くニュースリリースの作成ポイントなど記者の基本的な一日のスケジュールを例としての講演内容でした。



WEB業界の現状や展望を！



もうお一人、WEB分野で制作やコンサルなど業界の最前線で実践されている百戦練磨・上山社長（元楽天トラベル役員）からは、現状のWEB事情や今後のWEBが如何に社会で必要なツールになるかなどの展望についての講演内容でした。

研修会では、JAグループとしては、広報誌や各種会合などによる告知が主な手段であるため、組合員へ向けては情報が届くが、多くの地域住民へ伝える手段は十分に行われていないとの課題は共有でき、今後は民間新聞への記事掲載やWEBによる情報拡散の必要性は確認出来たと思います。

今後は、本協議会が推奨する食と農の交流WEBサイト「JOINtly GREEN」（ジョイントリー グリーン）の活用を推進参ります。



<http://green.jointly.hyakuren.org/>

来年も情報発信の基礎に関して、各プログラムの充実と参加者間での協議・検討の場づくり等も行い、パワーアップを図って参ります。

基礎研修会Ⅲの開催案内

外部団体との連携に必要な知識・ノウハウの習得および実践現場を視察！

J A都市農村交流全国協議会が、平成25年度の新たな取り組みとして、外部団体との連携を学ぶ基礎研修会Ⅲを以下のとおり開催いたします。

J Aの実践事例と民間の取り組みの現場にて実践者の話を伺いながら、今後の取り組みのヒントやアイデアを得たり、課題を共有し、その改善策の協議・検討を行います。

1月15日(水)が申込締め切りです。まだ間に合いますので、是非ともお申込みください。

<基礎研修会Ⅲ開催概要>

○研修会期間

平成26年1月27日(月)～28日(火)

○集合について

平成26年1月27日(月) AM10:30

集合場所：J R新大阪駅 1階コンビニ前

*開催：28日 J R新大阪駅 16時半予定

○研修先

- ・J Aおうみ富士 ファーマーズ・マーケット「おうみんち」〔滋賀県〕
- ・チャレンジファーム in 淡路 (PASONA 農援隊)〔淡路島〕
- ・のじま scuola (スコーラ)〔淡路島〕

○宿泊先

ホテルプラザオーサカ

* 阪急十三駅徒歩約10分

* シングル部屋対応

○研修費用 (消費税込)

Aコース (基礎研修会+情報交換会+宿泊)

・都市農村協会員 お一人様 20,000円

・都市農村流会員外お一人様 25,000円

Bコース (基礎研修会+情報交換会)

・都市農村協会員 お一人様 15,000円

・都市農村協会員外 お一人様 20,000円

※詳細は、本協議会ホームページでご確認いただけます。

検索都市農村交流全国協議会



※今年度の情報・意見情報交換集会
2月20日(木) 大手町JAビル
開催決定!

『交流』をテーマとして、「JA実践事例発表」に加え、新たな試みとして「パネルディスカッション」を行います。記念講演は、日本一のテーマパーク・東京ディズニーリゾートを運営しているオリエンタルランドから、ディズニーのおもてなしについてご講演いただきます。『交流』に活かせる「おもてなし」を学びませんか！
※詳細は、本協議会ホームページでご確認いただけます。

検索都市農村交流全国協議会

◀調査・研究▶



テーマ：婚活

民間と行政の連携！

皆さまお馴染みの大型ショッピングモールを運営するイオンに「結婚相談」を業務とするグループ会社「(株)ツヴァイ」があります。<http://www.zwei.com/>



ツヴァイには、有料会員制の結婚相談部門とは別に「チャテリオ事業部」という婚活に関するイベントなどを専門に行う事業開発部門があり、2008年から全国各地の40以上の行政な

どと連携した取組みを行っています。



<http://www.clubchat.io.jp/index.php>

主な業務内容は、

- ①司会・企画・受付などの人材派遣
- ②参加者の受付・イベント運営全般を受託
- ③男女出会う人数を増やし、地元PRへの仕掛けづくり
- ④全国へ取組みを発信

などが挙げられます。

要するに、婚活イベントを業務委託すると企画から参加者募集、そして運営まで一括して請け負うということです。(相手を探している男女いずれかの集客は依頼先の役割になります)

また、パーティー・セミナーなど月に約200本を関東・関西・中部の政令指定都市を中心に開催しており、年齢構成も10代から60代まで幅広い会員を約3万名抱えています。(30代が最も多い会員構成になっています)男女構成比は、男性56% 女性44%。この会員が、各地での婚活イベントを行う際の告知対象にもなります。

JAとして実施する婚活イベントをツヴァイへ業務委託した想定し、手順の一例を次頁に整理してみました。

費用の目安としては、業務委託を一括した際は100万円程度、当日の運営のみの場合は、50万円程度とのこ

とですが、開催場所などの諸条件によっても異なり、会場費・広告告知・スタッフの旅費などは別途かかるそうです。必ず案件毎に見積もり提出しているとのこと。

企画のマンネリ化、結婚対象者の募集など、お悩みの課題が解決できないでお困りの場合には、一度相談のうえ企画見積もりを作成いただくことも一策ではないかと思えます。

【イベント事前準備】

Step①

イベントの企画・運営をツヴァイへ業務委託（数回の企画会議を経て、実施へ）

Step②

農業担い手で結婚相手を探している男性（又は女性）をJAが公募

Step③

Step i の参加者への事前講座開催（マナー、服装、心掛け等に関する専門家による講座）

Step④

ツヴァイが異性の募集を開始（JAが募集しても可）

【イベント当日】

Step⑤

ツヴァイが受付から司会・運営など全般の業務委託（JAは立会）

【イベント実施後】

Step⑥

必要に応じて、実施レポート等の作成

事務局では、引き続きJAや他企業の取組みも調査しておりますので、婚活イベントに関して、お気軽にお問い合わせください。

（事務局：石井/JA全中くらしの対策課
TEL 03-6665-6244）

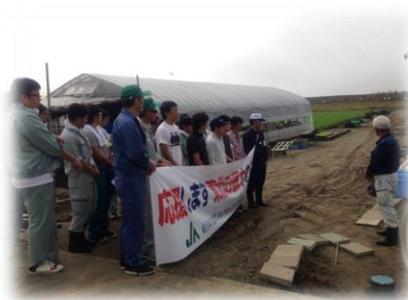
《絆レポート》

絆

JAグループ支援隊

（情報提供：農協観光 工藤篤志さん）

25年度のJAグループ支援隊が終了しました。



11月8日のJAグループ支援隊で今年度の活動は終了しました。5月から11月まで全国各地から594名が参加し、岩手・宮城・福島3県で応援しました。

被災地域・被災農家の生活もようやく再建へ向かい営農再開者も増え、作業内容は農地復旧・ハウス整備・農作業のお手伝いなどでした。

3年間で3,872人のJAグループ役職員が被災地を訪れました。今後は作業だけでなく、被災地の現状を理解するために交流を続けることも必要と感じられます。

《くらしの活動情報》

地域くらし戦略策定・実践の手引き

『「地域くらし戦略」策定・実践の手引き』が実践のためのツールとして作成。

「JA地域くらし戦略」とは、第26回大会決議に即していえば、「JAごとに、地域の実情に即して、食農教育活動、高齢者生活支援等のJAくらしの活動をどのように展開するか、そのうえでJAくらしの活動とJA事業との連携を深め、くらしを支援する総合事業をどのように展開していくか」とりまとめたもの」といえます。

このたびJA全中では、このJA地域くらし戦略を策定・実践のための、手引き書を作成しました。3月までには実践事例集も作成予定です。

《お知らせ》

新たな情報発信の手法



WEBを活用した新たな手法

都市と農村の交流をはじめ、様々な交流がありますが、不特定多数の地域内外の住民の方々の参加を募る企画も多数あると思います。例えば、JAまつりや農業体験、料理教室、さらには直売所イベント、観光農園など情報の拡散による集客強化は重要な要素と言

えます。

このたび、集客対策の新たな手法としてWEBサイト「JOINTLY GREEN」(ジョイントリーグリーン)をご紹介します。

<http://green.jointly.hyakuren.org/>

無料で手軽に利用できるシステム

当サイトは、イベント主催者がいつでも手軽にイベント情報をWEBサイトへ登録し掲載できるシステムです。ネットで情報を得る次世代への情報発信としても有効な手段が、無料でご利用いただけます。

業務軽減にもお役立ち

また、有料サービスとなりますが、「受付代行」の機能があります。この機能は、掲載したイベント情報のページから参加受付を出来るものです。WEBでの受付業務のイベント主催者のメリットとしては、従来電話での受付と比較をすると、1) 電話対応時間の軽減 2) 予約受付可能人員設定がシステム管理のため、予約超過の防止 3) 受付データが電子データ管理のため、名簿作成の業務が軽減 など業務効率化・軽減につながります。

本協議会会員特典

当システムの活用にあたっては、本協議会の会員特典も設けさせていただきますので、是非とも有効にご活用ください。

J A都市農村交流全国協議会 事務局 (J A全中 食農・くらしの対策課)

HP : <http://ja-koryu.com/> TEL03 (6665) 6240 (代) 担当: 石井・香取

*掲載内容に関するご意見・ご質問など、お気軽にお問い合わせ下さい。